

討論メモ

「台湾総統選と台湾有事」

令和 6年2月20日

森田晃司

1. 2月は、下山健夫さんに頭書のテーマを取り上げていただきました。

ウクライナ、中東と戦火が広がり、東アジアの状況にも懸念が増していますが、台湾有事の可能性について、下記のごとく様々な分野からの状況分析を行っていただきました。

- ① . 中国、米国、日本の事情
- ② 。国民党化する民進党、民進党化する国民党
- ③ 。半導体：世界を揺るがす半導体王国
- ④ 。こんな場合に中国は武力侵攻する（米国国務省の報告）
- ⑤ 。台湾外交の孤立化
- ⑥ 。その他、デジタル、多様性、トレンドなどの状況

台湾有事のシミュレーション（米国有力シンクタンクの CSIS による）

日本が検討しておくべきこと。

2. 次いで、出席者9名による様々な角度からの意見交換を行い、下記のような意見が出されました。

・台湾の総統選は 3 期連続で民進党が勝利したが、内容は辛勝であり、立法議員選挙は野党に負けている。台湾国民はバランス感覚があるのではないか。

・与野党の主張の差も小さくなっている。

・CSIS がシミュレーションで有事の可能性を強調して、各国の軍事費増強と同盟強化を促している。しかし、同シンクタンクは戦争を煽ることも多いので、冷静に対処すべきだ。

・台湾ではシェルターが整備されつつあるそうだが、日本は出遅れていないか。

・有事の際には、大陸や台湾からの難民が日本に流れ込む場合にはどう対処するのか？

また、大陸十万、台湾に二万人いるという日本人の保護をどうするのか？

検討されているのか。

・台湾の独立は、中国のほかの地方、民族の独立を誘発する恐れがあり、中国としては断じて許せない。

・中国は昔から腐敗、汚職がはびこって居る。中国が支配すると腐敗も台湾に蔓延すると台湾人は恐れている。

・CSIS の予測では台湾有事の確立は 10 - 20%だが、中国経済が落ち込むと戦争に打って出る懸念はある。

・台湾の TSMC は、なぜ半導体の新規工場の立地を九州にしたのだろうか？

日本の優秀な部品下請け工場との連携の考えたのだろう。

九州は原発が稼働しており、日本で一番電気代が安く、水も豊富だ。

・半導体製造で日本が台湾、韓国の後塵を拝するのは残念だ。

・日米半導体協定で、日本の輸出力を規制されてしまった。

この間に、韓国に技術が流れたのが、のちに響いた。

当時の日本は、家電メーカーが半導体事業を行っており、専門でなかった弱みもある。

・半導体製造では、日本は敗れたが、半導体の製造装置、原材料の分野では、依然として世界のトッププレーヤーだ。

以上